

「幼児の Narrative Skill 習得のための 物語行為支援システムの開発と評価」

D3 佐藤 朝美

【第一次審査会コメント】

～中原先生～

- 物語行為の概念に関する整理と追加説明が必要なのではないか。 →本文での用語の定義
- 道具がなくても親と子供で行われてきた研究をレビューすべき。 →本文執筆の中で
- 道具と環境をまとめる用語がシステムでよいのか。 →論文中の用語の使用方法を統制

～水越先生～

- 物語とナラティブの関係がよくわからない。 →本文での用語の定義
- 先行研究との違い（焦点）をしっかりと出すべき。 →継続中の課題
- 親子の関係の課題や問題もおさえた方がよい。 →継続中の課題

～山内先生～

- リサーチクエスションの設定がおかしい。 →相談内容1)
- 結論がトートロジーにならないように。

【今回の相談内容】

- 1) リサーチクエスションについて
- 2) 「物語」という用語が用いられる研究の整理

【今後のスケジュール】

• 第一章&「問い」チャレンジ	→第1回ゼミ発表
• 第一章書き直し + 「問い」&第二章チャレンジ	→第2回ゼミ発表
• 第一章&第二章書き直し + 第五章チャレンジ	→第3回ゼミ発表
• 第五章書き直し + 第三&四章チャレンジ	→8月
• 全体修正	→9月
• 第二次審査会	→後期
• 最終審査	→3月？

1) リサーチクエッションについて

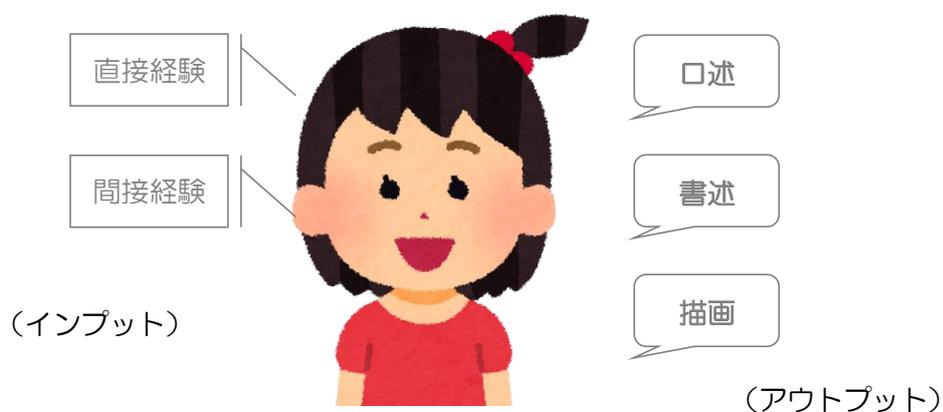
<今回 16.04.28>

「物語」を語る力である「Narrative Skill」の習得を、システムを用いてどのように支援することができるのか？

物語を語る行為を支援するために必要な要素

外化

先行研究を整理すると、子どもは、実体験などの直接経験したことや絵本や人からのお話などの間接経験をもとに物語を外化する。外化する形態としては、口述による作話であったり絵本として描画して作成するものであったり、就学前後では文章による記述であったりする。

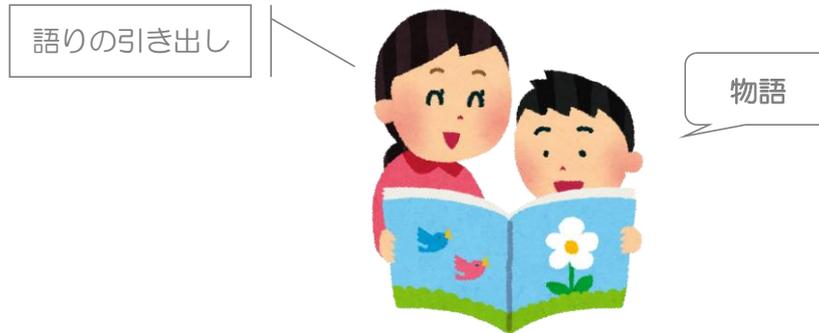


開発研究 1 (前半読み聞かせで話が途中で終わる→後半インタラクティブにお話を作る) では、システムを用いて語る素材を提供したあと、画面を操作しながらお話を作って言葉で表現する。インプットとアウトプットで支援が可能。

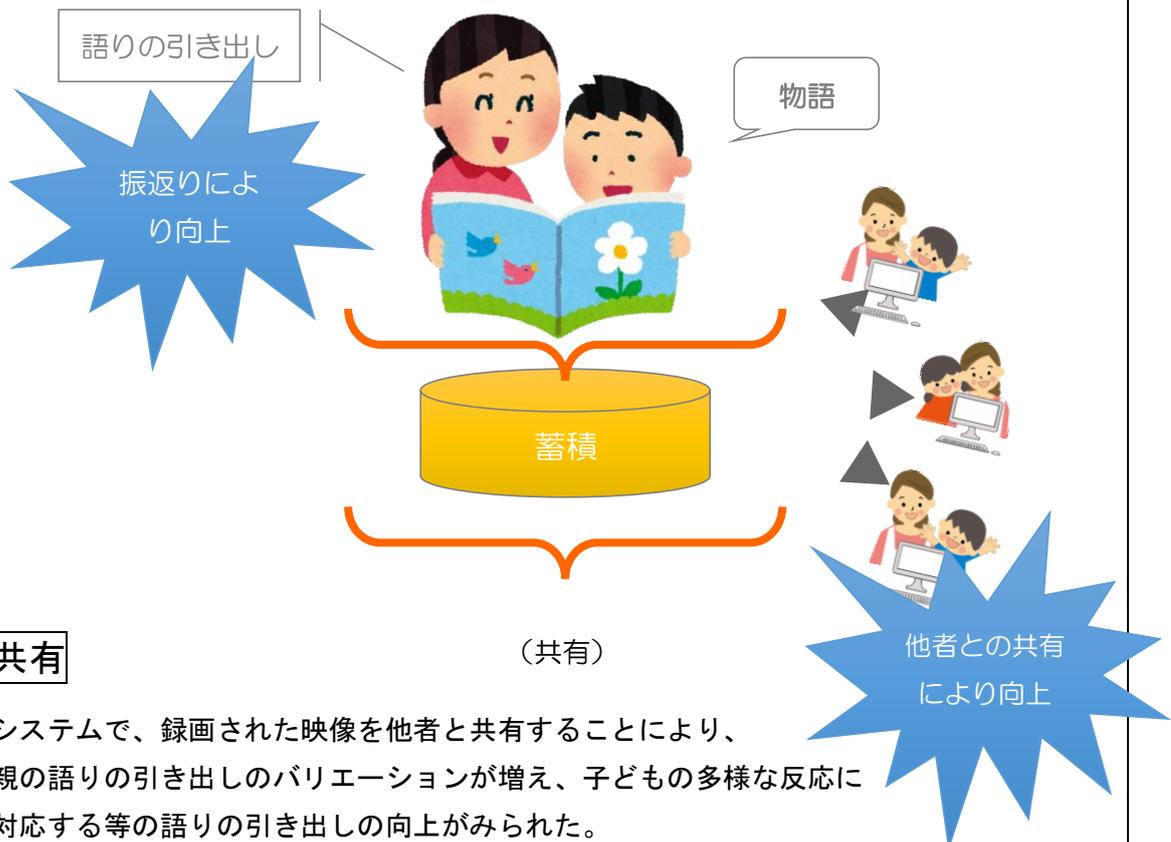


蓄積

先行研究では、語りの引き出し方により語りが変化していく



開発研究2（親子で物語を作り、そのやり取りをWebカメラで録画・サーバーへ保存、オンラインコミュニティで共有）では、外化された物語を蓄積することで、親の語りの引き出し方の振り返りを可能にした。さらに定期的に蓄積していくことで、長期にわたってNarrativeスキル習得の支援が可能になった。



共有

システムで、録画された映像を他者と共有することにより、親の語りの引き出しのバリエーションが増え、子どもの多様な反応に対応する等の語りの引き出しの向上がみられた。

<仮説>

物語を表現（外化）・蓄積・共有する機能を付随したシステムを開発することで、物語行為を支援するための環境が整う。システムを用いて物語行為を継続していくことで、「Narrative Skill」の習得を支援することができる

表現（外化）：物語を賦活し、「外化」させる、テーマの制約を設け、方向付ける

蓄積：「外化」した物語を「蓄積」していくことで振り返りが可能となる

共有：「蓄積」した物語を親子で「共有」するだけでなく、他者との「共有」をすることで支援が可能となる

<回答>

物語行為は、システムにより素材を提供することで物語を賦活し、システムを操作しながら物語するという形態で「外化」を支援⁽¹⁾、外化されたものを録画し「蓄積」することで親の振り返りが可能となり、語りの引き出し方の向上を支援⁽²⁾、さらに、他者と「共有」する場をシステムで実現することで、子どもに合わせた多様な語りの引き出し方の向上を支援⁽³⁾、することが可能になる。さらに、「蓄積」された動画を「共有」していく活動を続けていくことで長期的に支援⁽⁴⁾することがスキルの習得につながる。システム開発により「外化・蓄積・共有」の機能を実現し、上記4つの活動の支援を行うことで、子どもの「Narrative Skill」の習得を支援することが可能になる。

<前回 16.03.01>

心理的道具としての「物語」を語る力である「Narrative Skill」の習得を、物質的道具を用いてどのように支援することができるのか？

<仮説>

言葉の習得とともに盛んになる物語行為を、表現・蓄積・共有する機能を付随したシステムを使用しながら支援することで、人的環境・物語的環境に作用することが可能となり、「Narrative Skill」の習得を支援することができる

表現：物語をヴィジュアルで賦活し、外化させる、テーマの制約を設け、方向付ける

蓄積：外化した物語を蓄積していくことで振り返りや共有が可能となる

共有：物語を親子で共有するだけでなく、他者との共有をすることで支援が可能となる

<回答>

「表現・蓄積・共有」することが可能な現在のテクノロジー技術を用いて物語行為を支援することで「Narrative Skill」の習得を支援することができた。ただし、その子の発達段階に合わせるだけでなく、その子の体験や好みに結びつけたりする実際の言葉がけから、そこには親（身近な大人）という人的環境が必要で、システムに代用はできないということが明らかとなった。

<第一次審査時 16.01.13>

心理的道具である「物語」を、物質的道具を用いてどのように支援することができるのか？

<仮説>

表現・蓄積・共有することで、人的環境・物語的環境に作用することが可能となり、支援することができる

表現：物語をヴィジュアルで賦活し、外化させる、テーマの制約を設け、方向付ける

蓄積：外化した物語を蓄積していくことで振り返りや共有が可能となる

共有：物語を親子で共有するだけでなく、他者との共有をすることで支援が可能となる

<回答>

物質的道具に「表現・蓄積・共有」の機能を実装することで、支援に重要な「人的環境」が組み込まれ、物語の方向付けを行う「物語的環境」が整い、支援が可能となる。本研究でのシステム開発は、これらの「道具的環境」の開発にあたる。

2) 「物語」という用語が用いられる研究の整理

<今回 16.04.28>

■物語・物語行為

「物語」という用語には、古典の文学など作者が制作する世界の物語を分析する研究のほか、物語の構造に関する研究がある。物語の構造については、物語スキーマや物語文法と呼ばれ、起承転結などの構造から成立しており、就学頃には習得しているという発達調査に関する研究があるほか、それらを国語教育で物語理解を促すために利用したり、情報処理で自動生成する方法について研究する領域もある。

本研究での「物語」という用語は、ブルーナーが定義する「1つの物語は、出来事の因果から構成されるだけでなく、登場人物の事件が盛り込まれ、精神状態の変化を伴う一連の流れから成り立っている」という定義を用いる。

また、「物語行為」については、内田の調査で明らかになっている5歳頃から盛んになる活動を指し、絵カードをもとに作話する活動や絵本制作、読み聞かせ後の再話等、何らかの刺激を与えられることによる物語を産出する行為を指し示すこととする。さらにこれらの行為は、「すべての物語はお話しを語るというわれわれの古代からの遺産にその根をもつ」というブルーナーの定義に習い、日常の想起や空想の物語との区別をせず、お話しを語るという行為を意味することとする。

さらに、ブルーナーが「子どもは言語以前の早期から「物語へのレディネス」（「意味」を物語的に構成し生成する生得的傾向）をもっている」と言及していることをうけ、絵本の読み聞かせによる物語理解などの人為的な活動だけでなく、普段の生活における出来事の因果関係の推測（矛盾した出来事も自分なりに意味を見出し、因果関係を創り出していくこと）も背景にあるものとする。

- ブルーナー（1999）意味の復権—フォークサイコロジーに向けて。ミネルヴァ書房

■Narrative Skill（話す力）

体験や自分の考えを一連のまとまった物語（Narrative）として産出し、他者に伝える力

Narrative Skillの研究では、本スキルが5歳半過ぎから就業以降に確立されてくるものとされており、自分の過去の経験を語る（想起）に関するものが多いが、本研究では体験の想起だけでなく、空想の話、誰かを主人公とした仮想の出来事なども含めた物語の産出も Narrative Skillの習得に関係があるものとする。

正しい文法で人に伝えるだけでなく、内容に対する考えをまとめ、自分にとっての意味を作る力も含むこととする。

- Peterson, C., Jesso, B., & McCabe, A. (1999) Encouraging narratives in preschoolers: An intervention study. *Journal of Child Language*, 26, pp.49-67.
- 秦野悦子（編集）（2001）ことばの発達入門。大修館書店，東京

<修正 (16.03.01) >

■物語・物語行為

「物語」という用語には、古典の文学など作者が制作する世界の物語を分析する研究のほか、物語の構造に関する研究がある。物語の構造については、物語スキーマや物語文法と呼ばれ、起承転結などの構造から成立しており、就学頃には習得しているという発達調査に関する研究があるほか、それらを国語教育で物語理解を促すために利用したり、情報処理で自動生成する方法について研究する領域もある。

本研究での「物語」という用語は、ブルーナーが定義する「1つの物語は、出来事の因果から構成されるだけでなく、登場人物の事件が盛り込まれ、精神状態の変化を伴う一連の流れから成り立っている」という定義を用いる。

また、「物語行為」については、内田の調査で明らかになっている5歳頃から盛んになる活動を指し、絵カードをもとに作話する活動や絵本制作、読み聞かせ後の再話等、何らかの刺激を与えられることによる物語を産出する行為を指し示すこととする。さらにこれらの行為は、「すべての物語はお話しを語るというわれわれの古代からの遺産にその根をもつ」というブルーナーの定義に習い、日常の想起や空想の物語との区別をせず、お話しを語るという行為を意味することとする。

さらに、ブルーナーが「子どもは言語以前の早期から「物語へのレディネス」（「意味」を物語的に構成し生成する生得的傾向）をもっている」と言及していることをうけ、絵本の読み聞かせによる物語理解などの人為的な活動だけでなく、普段の生活における出来事の因果関係の推測（矛盾した出来事も自分なりに意味を見出し、因果関係を創り出していくこと）も背景にあるものとする。

- ブルーナー（1999）意味の復権—フォークサイコロジーに向けて。ミネルヴァ書房

■Narrative Skill（話す力）

体験や自分の考えを一連のまとまった物語（Narrative）として産出し、他者に伝える力

Narrative Skillの研究では、本スキルが5歳半過ぎから就業以降に確立されてくるものとされており、自分の過去の経験を語る（想起）に関するものが多いが、本研究では体験の想起だけでなく、空想の話、誰かを主人公とした仮想の出来事なども含めた物語の産出も Narrative Skillの習得に関係があるものとする。

正しい文法で人に伝えるだけでなく、内容に対する考えをまとめ、自分にとっての意味を作る力も含むこととする。

- Peterson, C., Jesso, B., & McCabe, A. (1999) Encouraging narratives in preschoolers: An intervention study. *Journal of Child Language*, 26, pp.49-67.
- 秦野悦子（編集）（2001）ことばの発達入門。大修館書店，東京

<前回>

■物語・物語行為

1つの物語は、出来事の因果から構成されるだけでなく、登場人物の事件が盛り込まれ、精神状態の変化を伴う一連の流れから成り立っている

すべての物語はお話しを語るというわれわれの古代からの遺産にその根をもつ

子どもは言語以前の早期から「物語へのレディネス」（「意味」を物語的に構成し生成する生得的傾向）をもっている

ブルーナー（1999）意味の復権—フォークサイコロジーに向けて。ミネルヴァ書房

■Narrative Skill（話す力）

体験や自分の考えを一連のまとまった物語（Narrative）として産出し、他者に伝える力

その内容は、自分の過去の経験、空想の話、誰かを主人公とした仮想の出来事など多岐にわたる。

正しい文法で人に伝えるだけでなく、内容に対する考えをまとめ、自分にとっての意味を作る力も含む

Peterson, C., Jesso, B., & McCabe, A. (1999) Encouraging narratives in preschoolers: An intervention study. *Journal of Child Language*, 26, pp. 49-67.

秦野悦子（編集）（2001）ことばの発達入門。大修館書店，東京

① 「物語」の構造に関する知識研究

- 物語スキーマ（Rumelhart(1975)） → 物語文法（Thorndyke(1977)ら）
- 物語スキーマを指導することが物語理解につながる（国語教育で）
- 物語の構造を物語自動生成に活かす（情報処理学会）
（「ストーリーテリング」という用語でも自動生成系研究がある）

② 物語理解に関する研究

- 年齢による理解の段階、認知発達との関連性を調査する研究
- 物語理解の手がかりとなるもの（カードや意図、質問）を調査する研究

③ 物語行為・物語産出・作話・お話づくり・絵本作り・ストーリーテリングに関する研究

- 発達段階で活動が盛んになる物語行為の発達段階に関わる研究（内田先生の研究等）
- 物語の産出と認知発達の関係に関わる研究
- 絵カードを用いたお話作り（作話）の発達段階や認知との関係、手がかりとなる要素との関係に関する研究
- 幼児教育の現場における絵本作りの効果についての実践研究
- お話の続きの作話させることで、お話の理解や記憶、発達段階を調査する研究

④ 物語と障害児を対象とした研究

- 自閉症児のお話作りの発達段階の調査やその支援に関する実践研究
- 視覚障害や聴覚障害の子どものお話作りの調査

⑤ 物語と自己に関する研究

- 物語を作成することと自己との関連性に関する研究（幼児と大人も）

⑥ ナラティブ（主に想起）スキルに関する研究

- 過去の出来事（想起）の内容と年齢差や男女差、基準の調査の研究
- 親の働きかけ、階級との関係を調査する研究
- 人生の出来事（怪我や引っ越しや入院）時の想起に関する調査

⑦ 物語の治癒効果に関する研究＝ナラティブ・アプローチ

- やまだようこのライフヒストリー研究や野口らの両方に関わるナラティブ・アプローチ研究

⑧ 文学としての「物語」研究

- 源氏物語等の古典文学についての研究

① 「物語」の構造に関する知識研究

Rumelhart, D. E. 1975 Notes on a schema for stories. In D. G. Bobrow & A. Collins (Eds.), Representation and understanding. New York: Academic Press.

Thorndyke, P. W. 1977 Cognitive structures in comprehension and memory in narrative discourse. Cognitive Psychology, 9, 77-110 ロラン・バルト（著），花輪 光（翻訳）（1979）物語の構造分析. みすず書房

岩永 正史（1986）物語スキーマの指導：アメリカ合衆国の場合を例に（国語教育の発達論的研究）. 国語科教育 33, 67-74

村井 源（2013）物語プロットデータベースのためのデータ構造の検討. 情報知識学会誌 23(2), 308-315

浜田 秀（2001）物語の四層構造. 認知科学 8(4), 319-326(文学と認知・コンピュータ)

浜田 秀（1995）ストーリーラインと感覚的リアリティーの構造について. 人文學報 75, 283-312

田中 吉資（1988）物語ツリーとクラスター・ツリー：段階的 grouping 法による Mandler の物語文法の検討（学習指導法・言語教育, 教授過程 6, 教授過程）. 日本教育心理学会総会発表論文集（30）, 844-845

② 物語理解に関する研究

松村 敦, 森 円花, 宇陀 則彦（2016）絵本の読み聞かせ時の演じ分けが子どもの物語理解と物語の印象に与える影響, 日本教育工学会論文誌 39(Suppl), 125-128

松村 敦, 根岸 舞, 宇陀 則彦（2014）絵本の読み聞かせ後の問いかけが子どもの物語理解とイメージ形成に与える影響. 日本教育工学会論文誌 38(Suppl.), 157-160,

由井 久枝（2002）幼児の物語理解に影響する要因：作動記憶容量と意図情報の役割に注目して. 教育心理学研究 50(4), 421-426

上原 友紀子（2008）子どもの物語理解における感情理解—探索的推論の視点から. 東京大学大学院教育学研究科紀要 48, 257-265

上原 友紀子（2007）「物語理解における情動」研究の概観. 東京大学大学院教育学研究科紀要 46, 239-246

内田伸子 1975 幼児における物語の記憶と理解におよぼす外言化・内言化経験の効果教育心理学研究, 23, 2, 19-28.

内田伸子 1982b スキーマ理論における「発達」の問題をめぐってサイコロジー3(24), 38-48.

太田 礼穂, 茂呂 雄二（2011）幼児期の物語理解は養育者にどのように捉えられているか—絵本読み聞かせ活動を中心に. 筑波大学心理学研究 (42), 9-20

- 池上 貴美子, 荷方 邦夫, 伊藤 未帆 (2009) 幼児の物語理解におけるイメージ表出の検討(1). 日本教育心理学会総会発表論文集 (51), 533
- 池上 貴美子, 荷方 邦夫, 伊藤 未帆 (2010) 幼児の物語理解におけるイメージ表出の検討(2)(口頭セッション 65 認知心理学・文章理解). 日本教育心理学会総会発表論文集 (52), 612
- 福島 広之, 内藤 佳津雄 (2009) 物語理解における登場人物の感情推測と読み手の感情の関係 (日本基礎心理学会第 27 回東北大会, 大会発表要旨). 基礎心理学研究 27(2), 175-17
- 内田 伸子 (1990) 物語のテーマの統合における〈欠如-補充〉枠組みの役割. 発達心理学研究 1(1), 30-40

③ 物語行為・物語産出・作話・絵本作りに関する研究

<物語行為>

- 藏屋 沙那恵, 神里 志穂子 (2015) 物語行為を促す問いかけ機能の評価(K 分野:教育工学・福祉工学・マルチメディア応用, 査読付き論文). 情報科学技術フォーラム講演論文集 14(3), 95-98
- 内田伸子 (1982) 幼児はいかに物語を創るか? 教育心理学研究, 30, 3, 47-58.
- 岩田 美保, 松田 理恵 (2006) 幼児の“お話づくり”における他者の内的状態への言及 : 誤信念課題と物語産出課題による検討(ポスター発表 E, 研究発表). 日本教育心理学会総会発表論文集 (48), 384

<物語産出>

- 内田伸子 (1996) 子どものディスコースの発達—物語産出の基礎過程. 風間書房
- 岩崎 紀子 (2002) 子どもの「物語」産出を生み育てる授業 : 小幡肇「『気になる木』の『はっぱ』をふやそう」の授業スタイルの原点をさぐる. 教育方法の探究 5, 21-29
- 小林 真 (1998) 物語産出に見られる幼児の想像性. 児童文化研究所所報 20, 1-13
- 西川 由紀子 (1995) 幼児の物語産出における「語り」の様式. 発達心理学研究 6(2), 124-133
- 細井 葉子 (1995) 物語産出に見られる認知的変化 : 発達の考察. 日本教育心理学会総会発表論文集 (37), 512
- 素野 悦子 (1994) 幼児の物語産出における独創性. 日本保育学会大会研究論文集 (47), 690-69
- 山本 博樹, 天沼 聡, 杉原 一昭 (1989) 物語産出の体制化に関する発達の研究 : 体制化のレベルと物語の内容構造との関係. 筑波大学心理学研究 11, 79-84

<作話>

- 石谷 真一 (2014) 人形遊び技法における作話の共同構築過程のコード化と幼児の対人適応との関連. 論集 61(2), 31-50
- 藪中 征代 (2012) 昔話絵本の絵が幼児の理解および作話に及ぼす影響. 研究紀要 23, 1-8
- 山本 政人 (2009) 幼児の因果的作話の発達. 人文 8, 119-128
- 田島 啓子 (1996) 幼児の作話を支える援助の条件に関する分析(ポスターセッション II). 日本保育学会大会研究論文集 (49), 954-955
- 田島 啓子 (1995) 作話能力の発達に影響を及ぼす要因についての分析. 日本保育学会大会研究論文集 (48), 770-771
- 吉田 弘道, 阪田 真代 (1994) 幼児の作話能力の発達に関する研究 : 幼児用家族関係検査(仮称)を用いて. 日本教育心理学会総会発表論文集 (36), 133
- 古屋 喜美代, 堀越 美加 (1989) 物語作話における人物キャラクターの役割(発達 1B). 日本教育心理学会総会発表論文集 (31), 34
- 佐藤 公代 (1989) 子供の作話, 心情, イメージに及ぼす挿絵と教示内容の影響. 愛媛大学教育学部紀要 第 1 部 教育科学 (35), p45-75
- 西川 由紀子 (1987) 幼児期後半における絵本を手がかりとした作話能力の発達 II (理解・カテゴリー, 学習 2, 学習). 日本教育心理学会総会発表論文集 (30), 662-663, 1988
- 前田 健一 (1984) 幼児の作話内容に及ぼす先行情報の効果 : 文字のない絵本を用いて(教授・学習 11 作文・物語理解, 研究発表). 日本教育心理学会総会発表論文集 (26), 758-75

池田 起巳子 (1984) 幼児における童話の理解力と作話能力について。：童話をよく話してやる家庭の幼児とほとんど話してやらない家庭の幼児との比較. 日本保育学会大会研究論文集 (37), 114-115

山本 道子 (1974) 子どもの作話に用いられた名詞について. 日本保育学会大会研究論文集 (28), 295-296

山本 道子 (1975) 子どもの作話にあらわれた比喻表現について (倉橋賞受賞論文). 幼児の教育 73(11), 29-35

山本 道子 (1973) 絵本への反応 : 作話内容の分析. 日本保育学会大会研究発表論文抄録 (26), 185-186

櫛田 宏子 (1967) 思考研究の方法論についての一考察 : とくに幼児の概念形成の実験を中心として. 教育心理学研究 15(1), 1-10, 60-61

小高 艶 (1919) 子供の作話. 心理研究 15(88), 440-454, 1919

<絵本づくり・絵本制作>

松本 博雄, 伊藤 崇 (2013) 幼児期における文字の利用 II : 幼児の絵本作り活動における文字の機能と文字獲得水準(発達, ポスター発表). 日本教育心理学会総会発表論文集 (55), 498

植草 一世, 馬場 彩果, 安藤 則夫 (2013) 子どもが絵本作りで発見すること. 植草学園大学研究紀要 5, 7-16

大須賀 隆子 (2009) 絵本作りを通じた自己理解 : 保育者養成校の学生から実習園の子どもたちへ (研究) 幼児の教育 108(4), 38-43

<お話作り>

上原 絵里 (2014) お話づくりを通じた文学的文章の読み方指導に関する考察 : 物語を楽しむための挿絵を活用したお話作りの実践から. 教育実践研究 24, 37-42

岩田 美保 (2007) 子どもの“お話作り”における登場人物の内的状態への言及—小学校1,2年生の児童の予備実験データの検討. 千葉大学教育学部研究紀要 55, 173-177

秋田 喜代美, 大村 彰道 (1987) 幼児・児童のお話作りにおける因果的産出能力の発達. 教育心理学研究 35(1), 65-73

<ストーリーテリング>

堀内 慎高, 星野 准一 (2012) 幼児のストーリーテリングを活性化させる動物型ロボット. 研究報告ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI) 2012-HCI-147(17), 1-6

大谷 朝 (2008) ストーリーテリングにおける子どもの物語体験の実際 : 絵本の読み聞かせと比較して. 甲南女子大学大学院論集. 人間科学研究編 (6), 75-83 (ストーリーテリングは、19世紀末頃からアメリカの公共図書館で児童奉仕として行われてきた。「訓練をつんだ語り手が、聞き手である子どもに、自然に語って聴かせる行為」)

堀田 大輔, 樫山 淳雄 (2007) ストーリーテリングと分類・体系の連携に基づく研究情報整理手法 : 大学の研究室における知識共有に向けて(学生セッション, 大学の AI・企業の AI). 電子情報通信学会技術研究報告. AI, 人工知能と知識処理 106(617), 29-32

二宮 一貴, 長井 祐梨花, 宮崎 光二, 中津 良平 (2007) ストーリーテリングを支援するチャットボットシステムの研究 (D-12. パターン認識・メディア理解, 一般講演). 電子情報通信学会総合大会講演論文集 2007年_情報・システム(2), 273

河村 仁, 三浦 枝里子, 中野 敦 [他], 星野 准一 (2007) 創発的ストーリー生成のためのエピソード連結機構. 情報処理学会研究報告エンタテインメントコンピューティング (EC) 2007(18(2007-EC-006)), 25-32

足立 幸子 (2004) スペインにおける「読書へのアニメーション」の源流と拡大状況. 山形大学紀要. 教育科学 13(3), 1-12(198-204)

星野 准一 (2004) ストーリーテリングと AI (<特集>エンタテインメントにおける AI 技術). 人工知能学会誌 19(1), 29-34, 2004

渡邊 亜子 (1992) 日本語学習者の談話の展開 : ストーリーテリングによる調査の中間報告 (第三回日本言語文化学会発表要旨). 言語文化と日本語教育 3, 49-52

栃木 由香 (1990) 日本語学習者のストーリーテリングに関する一分析：話の展開と接続形式を中心にして．筑波大学留学生教育センター日本語教育論集 5, 159-174
※デジタルストーリーテリングだとさらに沢山！

④ 障害児を対象とした研究

- 仲野真史，長崎勤 (2009) ナラティブの発達と支援．特殊教育学研究 47(3), 183-192
田中 宏季，サクティ サクリアニ，ニュービッグ グラム (2014) 物語発話からの自閉症スペクトラム障害児と定型発達児の語彙と韻律の特性分析．日本音響学会研究発表会講演論文集 日本音響学会 編, 1487-1490
砂田 裕美子，大庭 重治，惠羅 修吉 (2002) 知的障害児における物語絵本の活用を通じた語りの指導．日本教育心理学会総会発表論文集 (44), 464,
田中 真理 (2001) 知的障害者の物語伝達場面におけるメタコミュニケーション．教育心理学研究 49(4), 427-437
長崎 勤，鈴木 和子，長崎 裕子 (2000) 子どもはどのようにして自己経験を物語るのか？—健聴児と難聴児の報告活動の分析を通して．心身障害学研究 (24), 123-135
野本 有紀，長崎 勤 (2007) 5・6 歳幼児におけるナラティブの産出と理解：視覚の手がかりがリテリング (retelling) に及ぼす効果．障害科学研究 31, 21-31

⑤ 物語と自己に関する研究

- 岩田 純一 (2001) “わたし”の発達—乳幼児が語る“わたし”の世界．ミネルヴァ書房
田中 智志 (2010) 自己物語の始まり (巻頭言)．幼児の教育 109(3), 4-7
田中 敏 (1983) 幼児の物語理解を促進する効果的自己言語化の喚起．教育心理学研究 31(1), 1-9
小松 孝至，紺野 智衣里，中條 佐和子 (2010) 児童期の自己の発達と小学校の教育実践—作文 (綴方)・スピーチ活動の心理学的な意味づけ—．大阪教育大学紀要 第IV部門 教育科学 59(1), 81-95
檜原 真也 (2010) 児童養護施設におけるライフストーリーワーク：子どもの歴史を繋ぎ，自己物語を紡いでいくための援助技法．大正大学大学院研究論集 34, 258-248,
生越 達 (2004) 子どもたちの多面的自己と同調：新しい物語創造の可能性を探って．教育方法学研究：日本教育方法学会紀要 29, 1-12, 2004
浅野智彦 (2006) 近代的主体の変容と自己物語論．法社会学 2006(64), 28-42, 274
浅野 智彦 (1993) 物語行為はいかにして「私」を構成するか：ジャージェンの自己-物語論の批判的拡張．年報社会学論集 1993(6), 49-60

以上